

2018 明治安田生命 J2 リーグ 第 20 節 vs. **レノファ山口**

6/23 (土) 18:00 kick off @岐阜メモリアルセンター長良川競技場

2018岐大通2018岐  
通2018岐大通2018  
大通2018岐大通201  
岐大通2018岐大通2

**2018J2** ■順位表 ■第19節/暫定

勝点、得失点差、得点、失点、  
岐阜戦の戦績 (岐阜から見て)

【\*は1試合少ない】

1	山口	38p	+9	35	26
2	大分	37p	+12	37	25 A●
3	町田	35p	+10	33	23 H●
4	福岡	35p	+9	27	18 A●
5	松本	31p	+6	25	19 HO
* 6	岡山	30p	+6	20	14 A△
7	横浜FC	29p	-1	24	25 H●
8	岐阜	28p	+6	25	19 --- ---
9	大宮	28p	+4	27	23 AO
* 10	甲府	27p	+13	31	18 H●
11	山形	27p	+1	23	22
* 12	東京V	26p	+5	23	18 A△
13	千葉	25p	-2	32	34 AO
14	新潟	24p	-3	22	25 HO
* 15	金沢	22p	-2	21	23 H●
16	徳島	22p	-3	15	18 H△
17	水戸	21p	-6	19	25 HO
18	熊本	21p	-11	24	35 AO
19	栃木	20p	-9	18	27 H△
20	京都	15p	-12	17	29 A●
21	愛媛	14p	-14	12	26 AO
22	讃岐	12p	-18	13	31 AO

次回HomeGame

第22節 vs. 愛媛FC

7/8 (日) 18:00

@岐阜メモリアルセンター

長良川競技場

**大酒場 ホームラン**

名鉄岐阜駅前 (三菱UFJ銀行隣り)

年中無休 午後3時から営業

TEL.058-263-5201

**Living in Woods**

本庄工業株式会社

http://www.honjo-woodream.com/

**湯麺 戸塚**

店主: 戸塚 哲也

瑞穂市穂積 1596-4

11:30~14:00/18:00~21:00(L.O.20:50)

お休み情報 twitter: @Tanmen\_Tozuka

☆☆☆各務原店もよろしく!! ☆☆☆

today's guest : **レノファ山口**

2017 J2 11勝 5分26敗 勝ち点38:20位

直近の対決と結果

2017/09/16

J2 - 33節@維新公園

山口 0-1 岐阜

難波宏明 scored.

ここ3試合の公式戦の結果

FC岐阜		レノファ山口	
2018/06/17 J2 - 19節@長良川 岐阜 0-1 町田		2018/06/16 J2 - 19節@鳴門大塚 徳島 1-2 山口	
2018/06/10 J2 - 18節@ピカスタ 讃岐 0-1 岐阜		2018/06/09 J2 - 18節@みらスタ 山口 1-0 岡山	
2018/06/06 天皇杯2回戦@NDスタ 山形 2-2(Pen.4-2) 岐阜		2018/06/06 天皇杯2回戦@みらスタ 大分 1-2 山口	

●6/17 (日)・第19節。ホーム戦4連勝、そしてクラブ記録となるリーグ戦5連勝を懸けて、ホーム・町田戦に臨んだFC岐阜。しかし、上位・町田の激しいプレスに、試合序盤からペースを奪われる岐阜。攻撃の起点となるパスワークも、町田の激しいプレスに潰されてなかなか機能しない。守備でも、町田の縦へのシンプルな攻撃と激しい当たりで苦しめ、何度となくCKを跳ね返し続ける岐阜だったが、計13回目となるCKで残念ながらオウンゴール。その後、決定機を迎えるも得点には至らず、0-1で悔しい敗戦。クラブ記録のリーグ戦5連勝、そして#11 古橋亨梧のJ2リーグ記録タイとなる7試合連続ゴールも、振り出しに戻る結果となってしまった。

この敗戦で、FC岐阜は順位をひとつ下げて暫定8位に後退。そして下から追い上げてきたチームが多く、勝ち点差3以内が2チームから4チームに増え、勝ち点差6以内には16位・徳島も入ってきた。1つの敗戦が、大きく順位に影響する。これが、“優勝争い・プレーオフ争い”の厳しい世界なのだ、改めて痛感させる結果だ。気持ちを切り替えて、次の試合での勝利を目指すことが、上位に踏み留まるために重要だ。

さて、ホーム上位対決2連戦の次の相手は、レノファ山口。昨季はJ2昇格2年目のシーズンで大きく苦しみ、残留争いの末に20位という成績だった。しかし今年は、前・日本代表監督ハリルホジッチ氏を招聘した際の技術委員長を務めるなど、JFAで活躍した霜田正浩氏を監督に招聘して、スタッフ体制も一新。そして選手も大幅に補強した結果、今季は開幕3連勝で波に乗り、そのまま好調を維持して現在は2連勝・8戦無敗で単独首位に立っている。スタメン・中心選手も昨年とは半分以上入れ替わっており、全く別のチームと言って良いだろう。そして山口は首位チームに相応しく、攻撃的なスタイルを採るチームだ。一方の岐阜が目指すのも、攻撃的なサッカー。両チームともシステムは同じ4-3-3を採用して、サイド攻撃を主体としながら、クロスでの得点を狙う山口に対し、パスで相手を崩す岐阜。攻撃スタイルの異なる両チームが、互いの敵陣に攻め込む激しい攻防戦になることが予想される。

山口で最も注意すべき選手は、やはり現在11ゴール・J2得点王のCF#19 オナイウ阿道だろう。そして右WGの#8 小野瀬康介が8ゴール、左WGの#18 高木大輔が5ゴール。山口の総得点の7割近くを叩き出している、この3トップをしっかりと封じることが、岐阜の勝利のためには必要だ。一方の山口も、岐阜の攻撃陣に対しては素早いプレスをかけてくるだろう。このプレスをかいくぐり、岐阜の選手がゴールを決めるシーンが見たい。特に現在8ゴールでJ2得点ランキング3位タイの#11 古橋亨梧には、ゴールを量産して#19 オナイウ阿道を超える活躍を見せて欲しいところだ。

山口との(Jリーグでの)通算対戦成績は、2勝1分1敗・7得点6失点と、わずかに岐阜が上回っている。ホーム・長良川での成績は1分1敗・3得点4失点。昨シーズンは2/26 (日)・ホーム開幕戦で2-2の引き分け、9/16 (土) 第33節・アウェイ戦では1-0で勝利している。しかし、先述したように今年の山口は、全くの別チームと考えた方が良いだろう。そして、首位で乗り込んでくるチームが弱い訳がない。前節の敗戦で気持ちを新たに、僕らは挑戦者として、この厳しく激しい試合に臨まなくてはならない。いつのまにか今節が、2018シーズン42試合、前半戦のホーム最終戦となる。シーズン折り返しに入る大事な試合。最後まで走り抜く選手を信じ、勝利を信じて、選手に拍手と声援を送り、試合終了の笛と共に、勝利の『アイダ』を、そして選手と共に『万歳四唱』で、ホームスタジアム・長良川を、歓喜の渦に包み込もう。(ささたく)



「いらっやいませ」より「おかえりなさい」が似合うアットホームな韓国料理店。『チヂミ屋』はJR岐阜・名鉄岐阜駅から徒歩3分。休:月曜日

投稿募集!!

gidaidohri@gmail.com

## 【第19節】岐阜0-1町田

●クラブ新記録の5連勝、古橋のJ2タイ記録の7試合連続ゴール、そしてJ1参入プレーオフ圏内への浮上……。言わずもがな、いろんなことがかかっていた今節の試合、観衆7784人の中の1人として注目していました。

しかし、近いようで遠かったわずか1点の差…これが上位の壁なんでしょうね。

正直、町田に対してはそれほど力強さは感じませんでした、それでも90分通して前線からプレッシャーをかけ続けて、泥臭くてもセカンドボールを拾って攻撃に転じ、シュートまで行かなくてもCKをものにするなど、町田の最後まで走り続けるサッカーで、気づいたら岐阜を圧倒していた感がありました。また、守備の方でも古橋や途中交代のパウロにドリブルで攻め込まれても徹底的に中を切って、カットインさせたり有利な体勢でシュートを打たせたりしなかったDF陣の気迫が最後まで感じられました。

それでも、今の(4連勝中の)岐阜だったら、冷静に対処すれば失点することはないと思ってました。ただ、4連勝中の時にやってきたサッカーをなかなかさせてもらえず、徐々に焦れてきたのかな?と……。オウンゴールの場面でも、古橋も落ち着いて対処していればスルーしてGKでいったんプレーを切ることができたのではないかと、後になって思いましたが……。逆に、そういった気持ちの面でも岐阜を追い込んでたあたり、だてに上位にいるチームではないですね。試合終了のホイッスルが鳴った瞬間、町田の選手3人ぐらいがピッチに倒れ込んでいましたが、それだけ岐阜以上に強い気持ちで試合に臨んでいたと思います。

この敗戦を次節以降も引きずるようであれば、プレーオフ圏内はおろか、昨シーズンまでのように順位がずるずる下降していくと思います。しかも次節の対戦相手は首位山口。町田以上の厳しいプレッシャーやマークがあると思いますし、今節の試合で山口も岐阜対策のヒントを掴んでくることでしょう。しかし、今シーズンの岐阜であれば、この敗戦を次節で断ち切ることができれば、プレーオフ進出も決して夢ではないと思います。そのためには…次節の岐阜のサッカーに期待しましょう!

前半戦最大のヤマ場、相手にとって不足はないですね。厳しい試合が予想されますが、この厳しい状況を全員で乗り越えて、岐阜の勝利を後押ししましょう!

(2002応援隊)

●もうすぐシーズン前半戦も終わるというのに、こんな上位の位置にいて、ちょっと落ち着かないですね(苦笑)。目の前に見えたプレーオフ圏内、そして、上位チームとの対戦。いや、僕らも7位なんだから、一応は“上位対決”って言うても良いのかな?望んでやってた訳ではありませんが、一昨年来まで慣れ親しんだ残留争い(苦笑)も、それはそれはヒリヒリするものでしたが、やっぱり、こっちのプレーオフ争いも、ヒリヒリしますねえ…(笑)。

さて、町田といえば岐阜とは真逆のスタイルと言っても過言ではないチーム。リーグ最多のパス数で相手の守備バランスを崩して得点する岐阜に対し、リーグ最少のパス数で相手の守備を粉碎する町田。ある意味、岐阜が一番苦手とするスタイルで、しかも上位にいるチーム。厳しい対戦相手になるのは明白だったけれど……。

試合序盤から、岐阜のボールホルダーに前線から素早く激しくプレスをかける町田。岐阜がサイドにボールを運び、両ワイド後方の位置から、パスの速度を上げて相手の守備を崩す、あるいは縦にボールを入れる、『その前の』タイミングで、ダーティ気味にプレスに行くと、岐阜の攻撃リズム・パターンを作らせない。DFの裏に抜けようとする選手は、統率のとれたラインコントロールでオフサイドトラップにかける。そして、ボールを奪ったら、縦にシンプルにボールを出し、受けた選手がフィジカルで勝負あるいはボールをキープする間に、後

ろから選手が追い越して行って、連続攻撃を仕掛ける。GKから4タッチでシュートとか、なにそのシンプルさ(苦笑)、っていうぐらいシンプルだけど、確かに岐阜の対策としては有効だ。しかし、この走り方で町田は90分間保たないのでは?ならば、岐阜は我慢して、町田の選手の足が止まってきた所で攻撃を…と思ったのだけれど、予想以上に町田の選手たちの足が止まらない。そして、攻撃のリズムが崩れてセカンドボールが拾えない岐阜に、何度となく攻撃を仕掛け、CKを奪い、得意のセットプレーで得点を狙う。そりゃ、14回もCK与えてしまったら、1回ぐらいマグレにでも、ゴール入っちゃうよねえ……(溜息)。

何度か決定機もあったけれど、結局0-1で敗戦。スコア以上に、完璧な“対FC岐阜攻略法”を見事に実践した町田。上位チームの強さ、したたかさを痛烈に感じるようになってしまった。逆に言えば、僕らに“足りないもの”が何か気づく経験をしたのだと、僕は前向きに思いたい。例えば、町田のような素早く激しいプレスさえも、かわして攻撃できるパススピードや距離感、そしてサイドチェンジ。どんな位置からもシュートを狙う意識とパワー。最後まで走り負けのないスタミナとメンタル。例えばそういったものを向上させれば、僕らはもっと強くなる。強くなりたい。そんな事を感じた試合だった。

(ささたく)

●終了のホイッスルが鳴った瞬間、ピッチ上に描き出された光景は、まさに既視感。息も絶え絶えにピッチに横たわる町田。うなだれて立ち尽くす岐阜。昨季も、その前の年も見たような気がします。野津田では勝ってるのに……。

正直に申し上げれば、ボクは『町田のサッカーがキライ』です。「ウチの選手に何してくれるんだっ!」と叫んだりもします。ラフとも思える彼らのコンタクト・プレーにはウンザリです。しかし、それが彼らのスタイルであり、それを90分やり抜いたことが試合終了後の姿であり、勝利という結果なのだと認めざるを得ない。悔しくて仕方ないけど事実です。もちろん、立ち尽くすウチの選手が余力を残したなどという考えは微塵もありません。全力で戦い抜いてくれました。だからこそ悔しかった。コレが現状か、と。現在の順位差か、と。ならば、町田に勝つためにはどうするか?あのプレスとチャージに真っ向勝負を挑む必要はないでしょう。アレをいなし、かいくぐるためにはどうすればいいのか?ソレを追求しなければならぬ。ソレを成し遂げなければ、上のステージには行けない。改めて思い知らされた試合でした。

しかし、そんな敗戦でも0-1です。その失点はオウンゴール。触らなければゴールキックになったシュートに触ってしまったのが、この試合でゴールを決めればJ2の連続試合得点記録(日本語あってますか?)に並ぶキョーゴというのは、何たる皮肉か。そして、失点直後に訪れた決定機。ファーに寄った分だけ、コースが厳しくなったんだと思います。惜しかった。アレを決めていけば、どれほどのドラマティックな展開になったことか。長良川が興奮のるつぼと化していたことでしょう。あの試合展開で勝ち点を取る。負け試合を引き分けに持ち込む。それこそが強さの証。もう少し。あと、ほんのちょっとでした。決して不可能なことではないようにも見えましたが、わずかに、町田には届かなかった。その借りはアウェイで返すとしましょう。

繰り返しますが、オウンゴールのみの0-1です。左右両サイドへの展開が封じられ、そのたびにボールを最終ラインに戻さざるを得ない展開の中で、ギリギリではあったにせよ、町田のプレスに屈しなかったDF陣。思い返すたびに熱いモノがこみあげてきます。昨季なら、もっと余裕がある場面でもイーージーなミスで失点していたような気がします。この時期に得失点差がプラスという事実。見慣れない状況にアタフタしているのは自分だけ。おそらく、選手達は当然の結果と考えているでしょう。そんな選手達が頼もしいです。

いよいよ、次節は首位・山口戦。順位から見れば町田以上に

手強い相手と考えなければならないでしょう。山口を率いるのは、あの前日本代表監督・ハリルホジッチ氏を招へいた霜田さん。当然、デュエルやら、その他諸々の最先端のサッカーを仕込んでいることは疑う余地もありません。厳しい相手ではありますが、勝たなければ先には行けない。大木監督はシーズン前にこう言いました。「一桁順位を狙う。」と。そして「一桁と言っても1から9までである。だが、9位を狙うつもりはない。」と。いいでしょう。ならば、ヤルだけです。吉田松陰の名セリフ『諸君、狂いたまえ。』を謳う彼らよりも盛り上げる。偉人の名セリフはないかもしれないが、ボくらには昔から受け継いできた踊りがある。『ダンシング・ヒーロー』もある。選手をノせて、我々もノっていく。町田戦の失点以降は、そんな雰囲気が出来ていたような気がします。先制された後にもかかわらず、それくらいの声が聞こえてくる。メインからの、そしてバクスタからの手拍子もいつも以上に聞こえてきたように感じました。何か、とんでもないことが起きそうな予感がしています。みんなで、スタジアム全体で踊りまわろう！

週末は天気だけが残念な予報になっているけど、とにもかくにも選手に力を届けたい。自分に出来ることを、できる限り、精一杯に。それだけです。

あ、しめくくり一言。アレを決められるようになったら、シーズン20得点以上イケる！そしたら、中日新聞に掲載された通りになるよ。岐阜の看板背負って代表だよ。ガンバレ！

キョーゴ！！

(ぐん、)

●友人のツイッターでの「ここから上はこうなのか」という試合終了時の呟きは、観戦後のぼくの気持ちを最短かつ的確に表現していた。

「見る」という英語にはいろいろある。FC岐阜が昇格プレーオフ圏内を「見る」という事象で考えると、ずっと下位にいたこれまでは、それは“See”。「見る」というよりは「見える」という感覚。しかし、今季はFC岐阜が7位になって、プレーオフ圏内を「見る」が、“See”から“Watch”に変わった。変わって初めての試合、町田戦。“Watch”してわかったプレーオフ圏内は、「夢のファンタジーゾーン」ではなく「ドラゴンワールド」だった。

この日の町田は、これまで何度も何度もプレーオフ圏内で戦って鍛えられた鋼（はがね）の鎧でガチガチに武装していた。岐阜のストロングポイントである古橋の飛び出しも、ピッチの左側4分の1から決して中には入れさせなかった。彼が中で勝負できたのは失点直後にロングパスに抜け出してGKとの1対1を外したときだけだったろう。山岸の右サイドは、突破すらさせてもらえなかった。右SBの阿部は杉森との勝負づけが早いうちに終わってしまっただけで攻め上がりすら不可能になった。両サイドがきっちり理詰めで封鎖されてしまったから、中央のコーヤにはまったくボールが出てこなかった。町田はこの守備を、攻守一体のチームのタスクとしてしっかりやっていた。攻撃では、岐阜には高さで勝てることを理解しているので速いクロスをひたすらひたすら入れ続けた。結果、掃いて捨てるでも捨てるでも捨てきれないほどのCKの数。大木監督も試合後に語っていたが、あれだけCKを喰らって失点しない方がおかしい。いや、逆にあの時間までよく持ちこたえたと言えるだろう。

町田は「90分のどこかで1点を奪って1-0で勝つ」サッカーを計画し、パーフェクトに遂行した。『前半のうちに一気に』でも『前半は緩めに行って相手の脚が止まった後半で勝負』でもない。グラデーション（濃淡）なく、90分まったく同じハイレベルのプレス。岐阜が悪かったわけではない。ただただ、清々しいまでの完敗だった。

プレーオフ圏内とは、こうした戦闘力を維持出来るチームだけが生存を許される『鬼の棲み家』。想像を遥かに超える過酷な環境の世界だったわけだ。でも、ぼくは悲観していない。ぼくらは偶然にプレーオフ圏内を覗いてしまったわけではな

い。圏内を覗けるところまで来たから、覗いたのだ。ならば、もう一度チームを立て直して、覗きに来よう。覗くだけでなく、いつかはそこで生きてみよう。そこで生きるにはどの程度の武装と、どの程度の覚悟が必要になるのか、はっきりと「見た(Watched)」のだから。それは「見えた(Saw)」ではわからなかったことだ。

(吉田鑄造)

## 【ユース】東海プリンスの予定

●我らがFC岐阜ユースU-18（以下「FC岐阜ユース」）は今年東海プリンスリーグに参加しています。本日愛知県の口論義運動公園サッカー場にて第6節・名古屋経済大学高蔵高校戦が予定されていますが、結果はどうだったでしょうか？吉報が届いている事を祈っています。

この後の日程は6月30日に第7節藤枝明誠高校戦、7月7日に第8節清水桜が丘高校戦が予定されています。清水桜が丘高校戦は笠松町の岐阜県フットボールセンターにて予定されています。キックオフは13時。トップチームの試合とも重なっていませんので、是非観戦に行っておいて下さい。

頑張れよ、応援しているからな！FORZA！FC岐阜ユース！！

※試合会場・時間は変更される場合が有ります。必ずJFAやチームの公式サイトで確認して下さい。

(シュナ)

